

【校正方法】（圧力校正セット使用時）

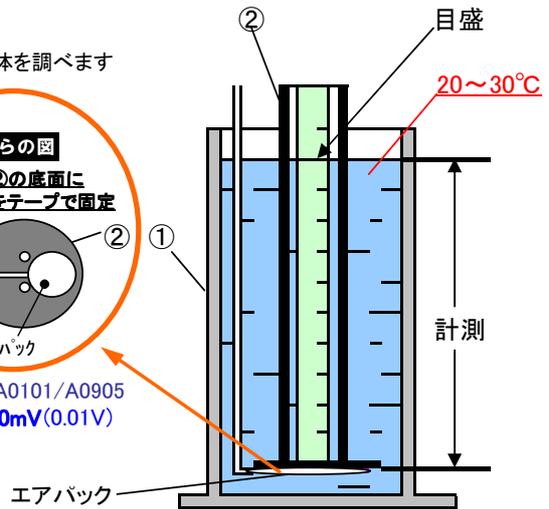
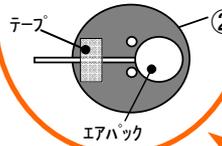
始めに測定設定でAの校正を行い、誤差許容を超えた場合にBの校正で測定器本体を調べます

A. 接触圧測定器とエアパックと接続した総合校正

カタログ仕様の精度は、環境温度 $20^{\circ}\text{C} \pm 5^{\circ}\text{C}$ で提示しています

- ①メスシリンダの青線上部まで湯($20 \sim 30^{\circ}\text{C}$)を入れる
(20°C 以下の水の場合は精度が悪くなります)
- ②校正用T字棒の底板にエアパックを取付ける
- ③①メスシリンダに②T字棒を沈める
- ④T字棒の目盛りで水深を計測する
- ⑤水深圧と表示を比較し、誤差を観る

下からの図
T字棒②の底面に
エアパックをテープで固定



水深圧力 エアパック圧力 3037 DC電圧出力 A0101/A0905
(102mmH₂O) → 1kPa (10.2gf/cm² or 7.5mmHg) → 100mV (0.1V) or 10mV (0.01V)

※この校正で誤差が出た場合、Bの校正を行って下さい
(その誤差原因は測定器本体か？エアパックか？を判断)

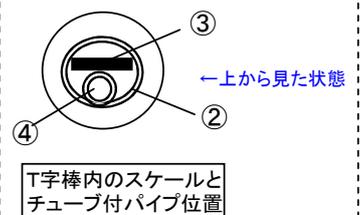
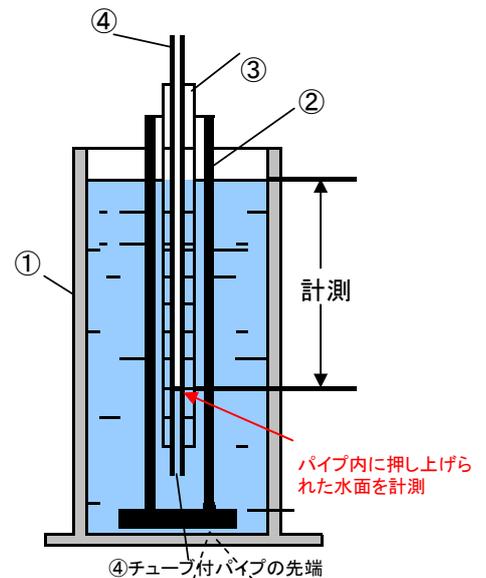
水ぬれ注意 機器に水滴が掛からないようご注意ください

B. 接触圧測定器本体のみの校正(圧力センサ)

- ①測定器本体に④チューブ付パイプを接続し出力(表示)ゼロを確認
- ②①校正用シリンダに②校正用T字棒を沈める
- ③T字棒のパイプに③スケールを差し込みゴムリングをずらしながら
スケールのゼロを水面に合わせる
- ④③スケールが入っている②T字棒のパイプ内に④チューブ付きパイプ
を挿入する
- ⑤④チューブ付きパイプ内の水面がに水圧により押し上げられ、
その④チューブ付きパイプ内の水面の高さと①メスシリンダの水面
との差を③スケールで計測する
その都度、スケールのゼロ位置を確認

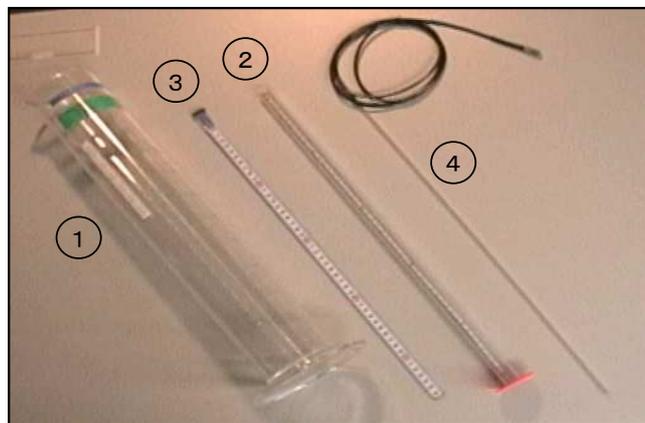
水深圧力 計測値 3037 DC電圧出力 A0101/A0905
(102mmH₂O) → 1kPa (10.2gf/cm² or 7.5mmHg) → 100mV (0.1V) or 10mV (0.01V)

※測定器本体に許容誤差以上誤差があった場合、当社に調整依頼に出して下さい



本体出力		【出力値と圧力単位換算】1kPa=10hPa				
AMI3037	A0101/A0905	SI単位		(旧単位)		
DCmV	DCmV	hPa	kPa	(gf/cm ²)	(mmH ₂ O)	(mmHg)
100	10	10	1	10.2	102	7.5
1.0	0.098	0.098	0.0098	1	10	0.736
0.098	0.0098	0.0098	0.00098	0.1	1	0.74
1.33	0.133	0.133	0.0133	1.36	13.6	1

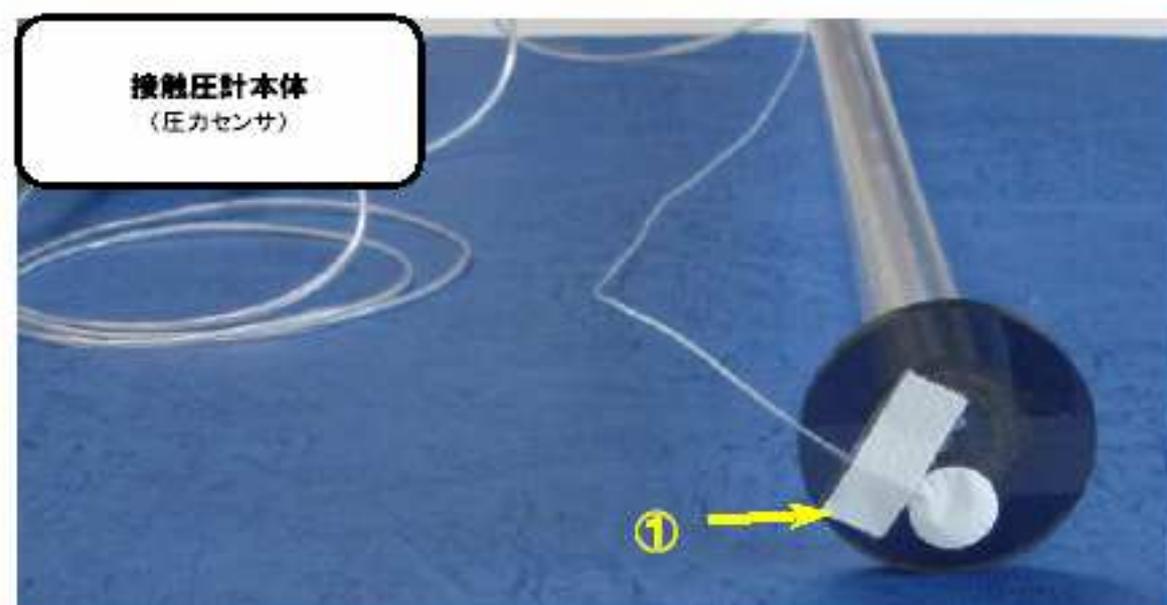
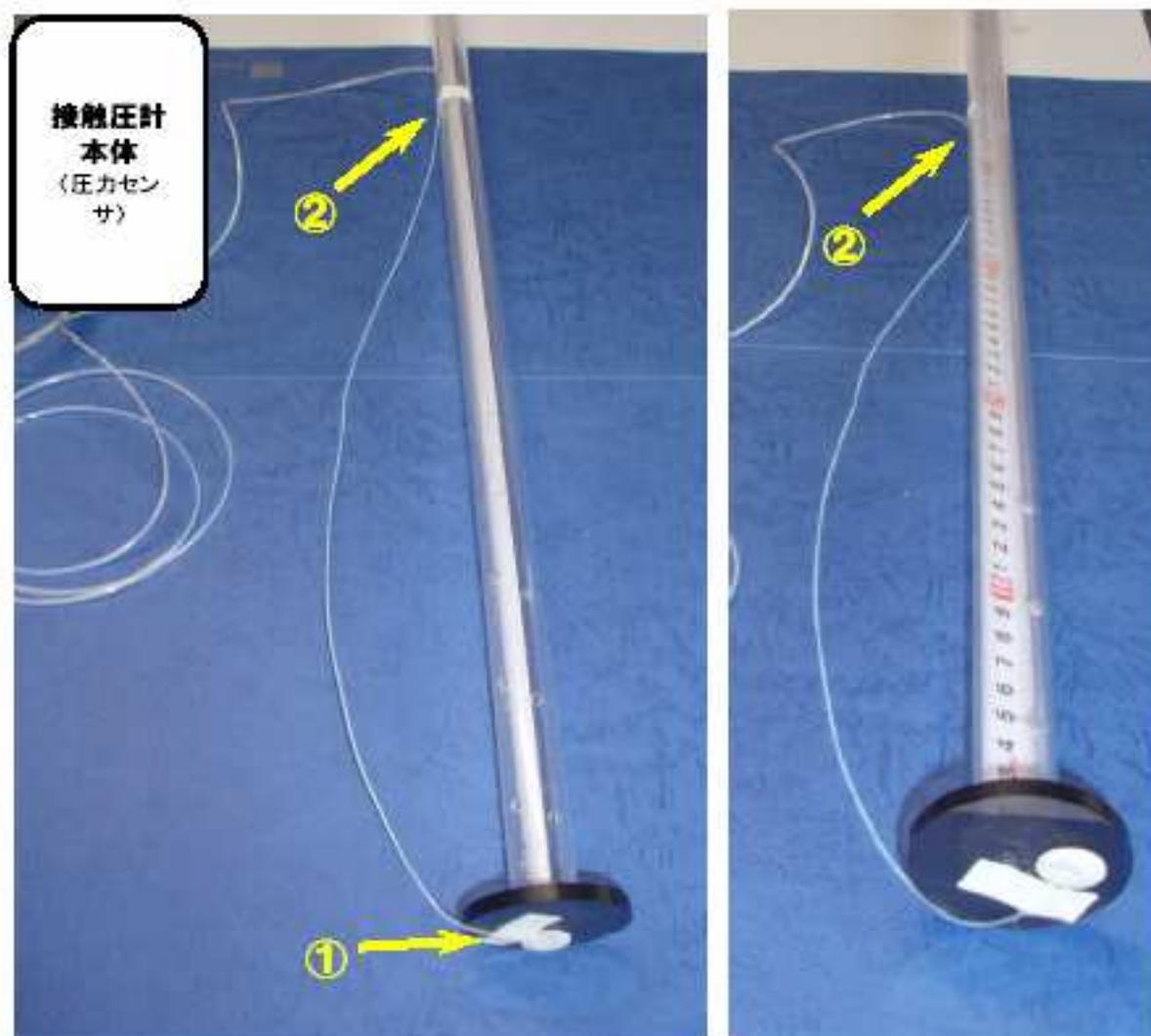
- ①校正用シリンダ
- ②校正用T字棒
- ③スケール
- ④チューブ付きパイプ



圧力校正装置の使用目的

平面の柔らかい接触環境で計測精度・再現性の確認、(半年,1年後など)経年変化の誤差確認、計測値の異常時の動作確認、接触圧計の原理説明などで使用して下さい。…測定する都度校正する必要はありません。
(柔らかい接触圧の(ISO,JIS等)規格が無いので、検査機関などによる校正試験は行っていません)

<圧力校正器の準備、エアバック固定の仕方>



- ①エアバックの袋部を、T字棒の水平板にチューブ付根をテープで固定
- ②パイプの中間点を目盛りが見える位置にテープで固定